

## 第4期さいたま市外国人市民委員会 第5回委員会 会議録

令和3年9月27日（月）～10月22日（金）まで開催した、「第4期さいたま市外国人市民委員会 第5回委員会」の会議録について、以下のとおりである。

### 1 第4期さいたま市外国人市民委員会の提言書への意見について

#### 「1 外国人の子育て・子どもの学校生活において必要な支援について」

・外国人の子育て・こどもの学校生活における必要な支援について「子育てをしている外国人の交流できる場が少ない」を「子育てをしている外国人の交流場の不足」などの言い方に変えるのはどうでしょうか。他の課題が名詞で終わっているようなので合わせた方がいいかなと思います。

続けて「いじめ、差別への対応」に関する項目がないので、(6) いじめ、差別への対応を追加して、対策を入れてくれるとありがたいです。対策としては、学校の道德の時間やいろんな授業を活用していじめ、差別の問題を減らす方法を考えてみるのはどうですか。(イ・ユジン)

#### ・(1) 子育て家庭への支援

外国人家庭のための子育てサークルや、同じ境遇の外国人が積極的に交流できる場を作ってください。を以下に変更すると良いと思います。

→外国人家庭のための子育てサークルや、同じ境遇の外国人が積極的に交流できるオンライン、オフラインの場を作ってください。

変更理由:

外国人がさいたま市に転入してきた時にまず外国人のためのホームページがあれば、自分が住んでいる場所から近くにいる友達探しや趣味、育児の情報を得る事に繋がることが考えられるので、良いのではないかと思います。またそのためには地域に住み慣れている先輩外国人のボランティアを国際交流センターなどが募集をして、その方達の力を借りると良いと思います。

地域になじんでいる先輩外国人を通して日本の地域にスムーズにはいることが出来るため、地域社会との交流という面でも期待が持てます。(リム・キョンヒ)

・(4) 外国人の子どもが学校生活や日本での生活で困った事を相談できるカウンセラーや、サポート役配置をしてください。を以下に変更すると良いと思います。

→外国人の子どもが学校生活や日本での生活に慣れるため、また困った時には気軽に相談できるカウンセラーやサポート役を地域別に配置してください。

変更の理由: 地域に同じ国の人がいるという事は、外国人にとって心強い存在である。そのため、この場合のカウンセラーやサポート役はその地域に住んでいる先輩外国人のボランティアとして適任であると思う。また、この様なボランティア活動が外国人と日本人のコミュニティ創設の機会にも繋がると思う。(リム・キョンヒ)

### ・(1) 子育て家庭への支援

現在、さいたま市ではたくさんの外国人が生活しています。その中に、保育園、幼稚園、小学校に通学している子どもはたくさんいます。また、日本に来たばかり、日本語が話せない子どももたくさんいます。こういう子どもに情報を伝えるときは、担当先生がわかりやすく説明する必要があって、連絡事項を母国語で書けるなら、より良いと思います。ネットの通訳を使っても、良いと思います。(オウ・ライ)

### ・(2) 日本語支援

外国人の子どもたちの中、放課後に、日本語補習を希望する人が多いです。また、外国人の保護者に対しても、平日の夜間、土日などの時間に公民館や市の施設を活用した日本語教室を開校したらいいと思います。

その他、今コロナウイルスで、オンライン授業を行う必要があります。オンラインはどこでも、いつでも勉強することができますので、日本語学習にも良い活用をして頂けると嬉しいです。外国人たちが日本語、日本文化、習慣を理解すれば、日本での生活の不安が解消し、よい生活ができます。(オウ・ライ)

### ・(3) サポート役のコディネーターの配置

外国人の子どもが学校生活や日本での生活で困った事ことを相談できるカウンセラーや、サポート役の配置をしてほしいです。

外国人の子どもたちが困ったことがあるときは、母国語で相談できると助かりますので、県庁や市役所などに専門の相談員を配置し、朝9時から夜8時までの対応をしてもらえると嬉しいです。また、相談員が実際学校に行って、子どもたちに状況を聞くなど対応してもらえると助かります。(オウ・ライ)

・電車で緊急事態の時の車内アナウンスは日本語のみなので、語学力がない人は何が起きているのか判断がつかないので、英語用のアナウンスを用意して緊急時に読み上げる、または自動音声を通して伝えると良いと思います。(里村・オアナ・ジョルジアナ)

### ・多文化共生コーディネーターやカウンセラーによるサポート

離れた場所にわざわざ訪問するにも時間と勇気が必要だったりします。大人たちは自分で選択したり、自分たちでその場所に行くことができますが、子供たちは自分たちで訪問が出来ません。もっと身近な場所に頼れる人がいてくれると困った時に相談しやすいと思います。いじめ・差別の対応や、カウンセリングについても信頼関係がなければなかなか心の内まで話してくれない事もあると思います。何回か学校を訪れたり、イベントに参加したりして距離を縮めるのも必要だと思います。相談しやすい環境づくりが大切です。(西川ナンシ)

・人生のフェーズに合わせた内容の学習や語学のレベルに合わせてステップを踏んで上達していく学びの場があると将来性や生活の向上につながっていきます。日本語の習得は学校生活や地域の人たちとのコミュニケーションに役に立ち、良い人間関係を気付くことが出来ればさいたま市での生活もより良いものになると思います。(西川ナンシ)

## 「2 外国人がさいたま市を訪れたいと思ってもらえるための観光の取組み」

・外国人がさいたま市を訪れたいと思ってもらえるための観光の取組みに関しては追加したいことがあります。どこの項目に入れてもらっても構いませんが（可能であれば（3） コンベンション、イベントについての方がいいと思います。）、「岩槻のヨーロッパ野菜」のことを紹介したらどうですか。健康的な生活への関心が高まっているので効果的であると思いました。（イ・ユジン）

・提言書の内容は、問題ないと思いますが、前の回答で説明したように、さいたま市の中長期的な観光の発展のために、単発のイベントだけに焦点をあてるだけではなく、長期的な観光客の集客を検討した方が良くと思います。ほとんどの観光客は、単発のイベントのためではなく、その場所が特別であり、他にはないものがあるので、その場所を訪れると思います。そこで、埼京線沿線で展開できるナイトマーケットや高架下の空き地を利用してレストラン・雑貨屋さんなどの誘致などのアイデアを前回出しました。残念ながら、これらのアイデアはどちらも第4期の提言書では取り上げられていないようです。

観光開発への長期的なアプローチは多方面での協力が必要となるため、努力が必要かもしれませんが、観光業への長期的な利益も大きくなるでしょう。ぜひ検討するに値する議題だと思っています。

今まで提案したアイデアとは別に毎日・毎月・朝・昼・夜など定期的に行うイベントなどはどうでしょうか。よく地方で見かける朝市のようなものです。さいたま市はいろいろな美味しい料理があります、例えば、肉汁うどんや味噌漬けの焼き鳥。ヨーロッパ野菜も生産して、その野菜は市内のフレンチ、イタリアンレストランが利用して、優秀な料理を作り出しています

(<https://www.city.saitama.jp/004/001/004/p041019.html>)。こういう料理を外国人に紹介できる定期的なイベントを行えば、観光客が徐々に増えるでしょう。駅に近いところにすれば、観光客が東京から電車で簡単に来られると思います。

1つのアイデアは大宮氷川神社についてです。とても美しく、歴史も長い神社ですが、英語で（日本語でも）あまり詳しく説明がないと思いますが、外国人の観光客はそうした説明に非常に興味を持っています。こういう情報を外国語で紹介する「ミニ博物館」を神社に近く作れば、もっと外国人の観光客が来ると思います。それが難しかったら、英語等で書いている綺麗なウェブサイトを作ればいいかもしれません。（リアンダー・ヒューズ）

・（1）外国の方が日本の文化を体験できる、紹介ウェブサイトを作成するとともに、の箇所で紹介ウェブサイトの後に下記のように「アプリ」という言葉を加えるのはいかがでしょうか。

→外国の方が日本の文化を体験できる、紹介ウェブサイトやアプリを作成するとともに、  
（リム・キョンヒ）

・2 外国人がさいたま市を訪れたいとおもってもらえるための観光の取り込み

埼京線高架下有楽町のコリドー一街のようにするという案をとっても賛同します。飲食は外国文化を代表することが出来るので、これをしっかり管理できれば、海外の文化をさいたま市の観光の取り込むことができ、良い影響を与えられると思います。（ライ・ウダラ）

・ 2-3 さいたま市ナイトマーケットについて、武蔵浦和駅から別所沼公園の間に遊歩道で民芸品や料理を提供する場を作ることについて。

これについて、とても良い案と思いますが、採用するときに注意すべきことは、衛生上の問題と周囲の住民との関係の事です。ここで気を付けるのは特にお年寄りの方に対する配慮です。衛生面では、イベントの翌日に食べ残しをきちんと清掃できていなかった場合、カラスの集まり場にもなりやすいため、周り住民の反感をかわれないように、注意すべきだと思います。(ライ・ウダラ)

#### ・文化体験の紹介

外国人には、日本文化に興味を持っている人はたくさんいますが、専用のホームページがまだありません。パンフレットを作成し、観光案内所をはじめ、各区役所、市民センター、大宮、新都心、浦和駅に置く必要があると思います。(ラ・コウ)

#### ・インターネットを活用する

(1) さいたま観光国際協会が作ったホームページを活用し、常に多言語で情報を発信する。今施設やツアーの予約はできないので、施設やツアーの予約をできるサイトを作ってほしいです。

(2) YouTube を活用し、さいたま市の有名な観光地や、おもしろいお店、きれいな公園の動画を撮ってほしいです。

(3) 外国人はほとんどの人が Facebook と LINE を利用していますので、専用の Facebook と LINE を作るのはいかがでしょうか。さいたま市の有名な観光地、面白い店、きれいな公園を多言語で、アップロードすると良いと思います。(ラ・コウ)

#### ・コンベンション、イベントについて

(1) さいたま市が持っている資源を生かし、さいたまスーパーアリーナ、さいたまスタジアム 2002 の施設と連携して、国際的なコンベンションを開催する。

さいたま市では、オリンピック会場にもなる施設がありますので、この2つの施設を利用し、国際体育イベントを開催したら良いと思います。

コンベンションの際に、大宮の盆栽、岩槻の人形、浦和のうなぎ、漫画文化などのイベントを行い、情報発信をすることで、さいたま市の魅力を多くの人に伝えることができると思います。

(ラ・コウ)

#### ・外国人の交流の場と文化体験の融合

コンベンション・イベントとしてでも構いませんが、さいたまスーパーアリーナや埼玉スタジアム 2002 を使って『ワールド・スポーツ大会』をやってみるのはいかがでしょうか？参加者は外国人やその家族そして地域の住民たちで、国籍関係なく老若男女誰だれでも参加可能とし、誰でも簡単に出来る種目で、勝つ事よりも交流のきっかけ作りや楽しむ事を目的にしたものが良いと思います。そこでさいたま市の観光地の紹介があったり、ローカルフードを食べる事が出来れば良い文化体験になる気がします。普段と違う人と会うのも良い情報交換の機会になると思います。また地域の日本語教室の生徒たちやサークルの人たちを参加させることでその存在を知るきっかけにもなるかと思います。(西川ナンシ)